



ご要望に対する取り組み

紫陽花の花が日ごとに紫色の色を深めておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

このところ、豪雨などによる避難指示が出される機会が多くなっていると感じています。先日の台風2号では、大雨により横浜市内にも土砂災害警戒情報が出るなど、様々な場所でも被害が出ました。地球温暖化による影響といわれていますが、そのような中においても、シャローム横浜が無事に守られたことを感謝するとともに、被害に遭われた皆様の一日も早く日常を取り戻すことができますようお祈りいたします。

シャローム横浜では、ご家族から「自由に面会したい」との要望も日増しに高まっており、ご利用者からも買い物などの外出の希望が出ています。そのため、感染症対策委員会にて今後の面会方法等について検討しておりますが、当施設では昨年度に二度のクラスターによりご利用者83名、職員46名が陽性となり、非常に苦しかった経験から、段階的に制限を緩和する方向で調整しています。新型コロナウイルスの感染状況は、5類になってからより把握しにくくなっており、いまだに近隣の療養施設でクラスターが発生するなど、安

心でできる環境にはなっておりません。

ウイルスは変異すると感染力は強くなりますが、重症化する力は弱まるといわれています。そのため、感染者の死亡者数は減少傾向にあります。特養ご利用者は基礎疾患を持っておられるため、感染すると重症化して一気にレベル低下をしてしまいます。また、3年半という長い間、各フロアへの出入りをしておりませんでしたので、ご家族をお迎えするための環境整備に時間がかかっていること、ご家族をフロアにお迎えした際に職員の対応がきちんとしてくれる体制をつくるのに時間がかかっております。職員数が少なくなりましたことなど、様々な問題に直面しておりますが、職員と共にご家族をお迎えできるかを前向きに話し合い、準備を進めてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

「だから、明日の事を思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思わすらうである。一日の苦勞はその日一日だけで充分である」マタイ六章三四節

施設長 高原 信夫

4F レクリエーション活動報告

4月より一般虚弱棟の課長を拝命いたしました松岡と申します。

至らない点もあるかと思いますが、ご利用者と楽しく笑顔溢れるフロアを目指して行く所存です。どうぞよろしくお願い致します。

早速、4月はお花見レクとアイスクリームを愉しむ会、5月は鯉のぼり鑑賞会と駄菓子レクを行いました。6月は様々なお煎餅を用意して楽しんで頂こうと考えております。

ケアサービス課 一般虚弱棟 課長 松岡 勇次



第 275 号

令和 5 年 6 月 15 日発行
(毎月 1 回 15 日発行)

責任者:施設長 高原 信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町 1988
社会福祉法人アドベンチスト福祉会
シャローム横浜

編集委員

小林・荒金・石橋
☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>





生活相談員



新体制になって早いもので1年が過ぎました。

経験の浅い私たち相談員で、ご利用者、特にご家族の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。いつも温かく見守ってくださり心より感謝いたします。また、4月から相談員が3名となりました。しばらくは、特養相談員の荒金、ショートステイ相談員の山本と兼務の原田で対応していきます。何かとご不便をおかけするとは思いますが、今後ともよろしくお願い致します。

相談企画課 課長 原田 明子

- ①大切なもの
- ②趣味
- ③シャローム歴

山本
①愛息子(2才)
②旅行
ドラえもんグッズ集め
③21年

原田
①愛犬(16才)
②ホットヨガ
食べ飲み歩き
映画鑑賞
③24年

荒金
①愛娘(2才)
②サッカー観戦
ゆずのライブに行くこと
③9年



山本 原田 荒金

早咲きの花から採れた美味しい蜂蜜

今年は、例年より早く気温が上昇し、花が一斉に咲きました。そのため、ミツバチが蜂蜜を花から集める期間が短くなりました。6月の時点で採蜜した蜂蜜は約百キロです。昨年より量は少ないですが、じっくり熟成したせいか、糖分も上がり、質の良い蜂蜜ができました。

☆採蜜した蜂蜜の種類は次の通りです。

- ・春百花(桜、蓮華、山吹、紅葉、藤、ドウダンツツジ、土佐ミズキ)
- ・初夏の百花(アカシア、ヘアリーベッチ、キャットミント、ミソハギ、チューリップツリー)

これから栗の蜂蜜が採れる時期になります。皆さんも楽しみにして下さい。

栄養課 課長 小寺 秀偉



三笠宮百合子様、百歳の誕生日にて想う事

第183回 チャプレン 上前 至

6月4日(日)に、皇族の三笠宮百合様が百歳の誕生日を迎えられたという。そのことから私はあることを思い出した。それは伴侶であられた三笠宮崇仁(たかひと)親王のことである。親王は昭和天皇の末の弟である。崇仁親王は7年前の2016年に、満百歳で亡くなられたが、百合子妃はお元気で、皇族関係者で最長寿の記録を更新されていくのではないかという。ここで崇仁親王のことを話したい。というのは、親王は戦前、陸軍大学を卒業し、参謀も勤められ、生粋の軍人としての生き方をされてきた方であるが、その中で革新的方針を求め、当時の日本陸軍の方針に対し異を唱えてこられたからである。当時の戦争継続一色の中で異を唱えることは相当勇気のいることであったが、親王はそれを貫かれた。それは平和を大切にされ、昭和天皇を助け、戦争終結への道を助けていかれたことにも現れている。ここで私が注目したいのは戦後の親王の生

き方である。親王は古代オリエント文化に興味を持たれ、東京都三鷹の「中近東文化センター」研究所設立に尽力され、初代総裁にもなられている。ヘブル語にも堪能でフィネガン著『聖書年代学』を翻訳し、その翻訳によってその年の日本翻訳大賞も受賞されている。実は私事であるが、そのヘブル語翻訳において私の家内の大叔父である中沢(立教大名誉教授)が手伝ったということである。ということは、親王は聖書に堪能で、一般人以上にキリスト教にも深い理解を持ち、その思想に敬意を払っておられたことは間違いないことであろう。「それらの人は血筋によらず、肉の欲によらず・・・ただ神によって生まれたのである」。ヨハネ1章13節

